

情報収集方針について（案）

対象海域における水産資源としての重要性や対象海域に問題事象の発生状況、平成18年の委員会報告の整理等を踏まえた上で、当面の情報収集範囲は次の通りとする。

1. 有明海

項目	収 集 内 容	実施機関	調査期間
有用二枚貝 (特にタイラギ、アサリ、ハマグリ、サルボウ、カキ、アゲマキ、)	①生息域 ②生息状況(密度、生残率、サイズ、成熟度、外観、検鏡等) ③漁業種類、漁獲場所、漁獲量・サイズ ④底質状態等漁場環境 ⑤生態・食性・餌料生物 ⑥幼生発生量・着底状況 ⑦食害生物の状況 ⑧対策技術(漁場改善、増殖(技術内容と実施状況)) ⑨その他(採捕規制等)	国及び関係県 (必要があれば漁連・漁協まで対象拡大)	平成17年以降に実施したものの ただし委員会報告に未記載の事項は遡り可能な範囲以降
有用魚介類の漁業と増殖 (特にクルマエビ、ガザミ、マダイ、ヒラメ)	①分布、回遊、産卵場・育成場(種別) ②資源量・資源状態(又は漁獲量) ③対象漁業(漁法、時期、漁場、サイズ) ④食性・捕食者 ⑤産卵場・育成場環境 ⑥対策技術(種苗生産・放流(技術内容と実施状況:時期、場所、サイズ)) ⑦⑥を実施した結果(回収率、混入率) ⑧その他(漁業規制等)		
魚介類養殖	①養殖場所・養殖時期(種別) ②赤潮被害発生状況(魚介類種別、プランクトン種別、発生範囲、死因) ③疾病発生状況(魚介類種別、疾病種別、発生範囲、死因) ④餌料(種類・回数・量) ⑤対策技術(ワクチン投与、投薬、赤潮被害予防、防除(技術内容と実施状況)) ⑥その他(養殖施設の形状、規制等)		
ノリ養殖	①色落ち発生状況(発生条件、発生場所、発生期間) ②色落ち解消状況(解消条件、解消理由) ③漁場環境(水温・塩分・栄養塩濃度、プランクトン量) ④対策技術(付着藻類対策、栄養塩不足対策、疾病対策、品質向上対策(技術内容と実施状況)) ⑤その他(操業パターン、規制等)		
赤潮	①発生密度、発生時期、発生場所(種別) ②発生時(発生前)の漁場環境(水温・塩分、栄養塩等)、気象条件 ③被害水産生物(種類・量・サイズ・死因等) ④増殖速度・増殖条件 ⑤競合生物・捕食生物 ⑥シスト分布・孵化条件 ⑥対策技術(発生予防、被害予防・軽減(技術内容及び実施状況)) ⑦その他	国及び関係県 (必要があれば漁連・漁協まで対象拡大)	同上
貧酸素水塊	①発生時期、発生場所、溶存酸素濃度 ②発生時(発生前・発生中)環境・気象条件 ③解消時環境・気象条件 ④対策技術(濃度上昇、発生予防、被害軽減、予測、待避(技術内容と実施状況)) ⑤その他		
定期観測等	①浅海定線調査 ②公共用水域水質測定調査 ③その他(上記以外で国又は関係県が定期的又は常時測定している調査(公表データ)のうち必要と思われる情報等)	国及び関係県	同上

2. 八代海

項目	収 集 内 容	実施機関	調査期間
有用二枚貝 (特にアサリ、タイラギ、ハマグリ、サルボウ)	有明海と同じ	有明海と同じ	平成 17 年以降に実施したもの ただし委員会報告に未記載の事項は遡り可能な範囲以降
有用魚介類の 漁業と増殖 (特にクルマエビ、ガザミ、マダイ、ヒラメ)	有明海と同じ		
魚介類養殖	有明海と同じ		
ノリ養殖	有明海と同じ		
赤潮	有明海と同じ	有明海と同じ	同上
貧酸素水塊	有明海と同じ		
定期観測等	有明海と同じ	有明海と同じ	同上

3. 橘湾

項目	収 集 内 容	実施機関	調査期間
有用魚介類の 漁業と増殖 (特にクルマエビ、ガザミ、マダイ、ヒラメ)	八代海と同じ	有明海と同じ	平成 17 年以降に実施したもの ただし委員会報告に未記載の事項は遡り可能な範囲以降
魚介類養殖	八代海と同じ		
赤潮	有明海と同じ	有明海と同じ	同上
貧酸素水塊	有明海と同じ		
定期観測等	有明海と同じ	国及び関係県	同上

<留意点>

大学等研究機関の情報については、本小委員会が予め整理上不可欠であると認めた文献を除き、原則、国及び関係県の情報だけでは該当項目に関する情報が得られない場合や情報量が不足する場合に論文等の文献を収集することとする。